



わかあゆ

編集・発行: 高津・東高津中学校区地域教育会議 広報委員会

コロナ禍でできたこと、

できなかったこと

川崎市立東高津小学校

学校長 渡部 伸一



本年度、麻生区の麻生小学校より東高津小学校に転任してまいりました渡部伸一(わたなべしんいち)と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本校は、1000人を超える大規模校で、「考えよう やつてみよう みんなの本気が 明日への一歩」の学校教育目標のもと教育実践に努めています。

小学校の学習指導要領が改訂され、全面实施となつて2年、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を進めているところですが、新型コロナウイルス感染症の影響でなかな

か計画通りに教育活動が進められていないのが実情です。

ただ、初めから「できない」とあきらめるのではなく、子どもたちや教職員の考えや知恵を出し合い、どうやったら実現できるかを考えながら、工夫をして様々な学習、行事、活動を進めてきました。

例えば、子どもたちが楽しみにしている運動会。例年は、全校が校庭に集い、競技や演技に一生懸命に取り組んだり、他学年や仲間に応援を送ったりしていましたが、今年度は2学年ごとに3部構成にして、校庭で競技、演技をしている学年以外は、教室からGIGA端末で参加し、頑張る姿に拍手でエールを送りました。

また、ペア学年の交流も、対面での活動が難しかったので、meetを通して行いました。もちろん、対面の方が良い点はたくさんありますが、このような状況下で、各学年、各学級が、「どうしたら仲良くなれるか」「どうしたら感謝の気持ちを伝えることができるか」等を考え、伝え方を工夫し、交流する

ことができました。

コロナ禍で、感染予防の観点から、子どもたち同士の物理的なディスタンスはとらなければなりません。でも、心のディスタンスは「密」でありたいと願い、教職員一同、子どもたちの教育活動を支えています。

注 GIGA端末 「かわやGIGAスクール構想」により市立小・中学校の全児童生徒に1人1台端末(Chromebook)を配備しようとするもの。

meet Google Meet Googleが開発したビデオ会議アプリケーション。

渡部校長先生、お忙しい中、原稿を作成いただき、ありがとうございます。

コロナ禍により、中学校区地域教育会議は、昨年度に引き続き令和3年度もこれまでのような活動が出来ずに終わらせています。

アフターコロナの時代に、学校と地域の絆が深まるよう、学校の様子を地域の方々を知っていただきたい、校長の思いを掲載したいので、とお願いした次第です。

今後はシリーズとして、各学校からの発信を『わかあゆ』に掲載していきたいと思えます。

地域の寺子屋

久本小、東高津小、坂戸小 中学校区の小学校3校にそろいました!



「地域の寺子屋」は、2014(平成26)年に始まった福田・川崎市長肝いりの事業です。「地域の寺子屋」は、地域の団体に運営していただき、学校施設を活用して、学習支援や体験活動を実施します。

学校の授業でもなく、塾でもない場。地域のおじさん、おばさん、おいちゃん、おばあちゃん、そしておにいさんやおねえさん、地域の様々な方の知識や経験を活かした、多世代で学ぶ場でもあります。

みんなで勉強しているいろいろな場所を子どもたちに提供することで、子どもも大人もみんなが楽しく学び、遊び、話をし、つながれることを目指しています。

https://www.city.kawasaki.jp/880/category/10-14-0-0-0-0-0-0-0-himi

教育委員会の「寺子屋」のリーフレット

地域の寺子屋について、詳しくは川崎市教育委員会のホームページをご覧ください。

初年度の2014(平成26)年、モデル事業として市内8カ所で開催されました。そのひとつが久本小学校の寺子屋で、高津総合型スポーツクラブSELFが運営しています。その後、私たちの中学校区では寺子屋の開講がしばらくありませんでしたが、2020(令和2)年10月に「寺子屋ひなたかつ」(東高津区)の小学校が、2021(令和3)年11月に「寺子屋SAKADO」(坂戸小学校)がスタートし、中学校区の3つの小学校に寺子屋が揃ったことになりました。

「寺子屋ひなたかつ」に続き「寺子屋SAKADO」の運営を担うSELFに話を伺いました。

※SELFは橋中学校区の末長小学校でも寺子屋を運営(2021年6月開講)しています。

※「寺子屋ひなたかつ」(東高津小学校)は一般社団法人ピッカが運営しています。



ダブルタッチ(久本小学校)

校庭は狭いです。コロナ禍による運動機会の減少は学校の課題。SELFによる走り方教室や逆上がり教室などの企画に期待するところがあつたようです。

また、寺子屋SAKADOは、以前より元PTA役員からやりたいね、という話が出ていたそうです。

寺子屋先生やプロスポーツチーム、そして地域の企業など、地域を巻き込んでつないでいくのが



鈴木事務局長と藤迫さん

SELFの「地域の寺子屋事業」は、鈴木事務局長と藤迫さんがコーディネートし、地域のボランティアスタッフが運営しています。

その日は、川崎を拠点とするプロバスケットチーム「川崎ブレイブサンダース」のユーススタッフが指導するシニアバスケットスクールが開催されていました。

SELFの寺子屋事業

SELFで寺子屋事業を担当している鈴木章弘事務局長と藤迫明子さんを、3月8日、事業を行っていた富士通ゼネラル体育館に訪ねました。

その日は、川崎を拠点とするプロバスケットチーム「川崎ブレイブサンダース」のユーススタッフが指導するシニアバスケットスクールが開催されていました。

寺子屋の先へ

「学校教育カリキュラムにないことを体験できるのが寺子屋。子どもたちや講師、ボランティアも含め、地域の中での関係性が深まっているのを感じている」と、鈴木事務局長。

私も数年前、寺子屋ひさもとで地域安全マップ作成講座の講師をしたことを思い出しました。子どもチームと親のチームで同じ場所をフィールドワークし、どちらのチームが作った地域安全マップがより適切なものになったかを競う形となり、面白かつたなあと思い起こしました。

SELFの役割。ほかの学校にも展開していけたらとお二人は話していました。

末長小学校では、学校に隣接する富士通ゼネラル様の協力で、会社敷地内の広場を活用したスペースとして使用させていただけることになったそうです。



走り方教室(末長小学校)

【編集後記】

運営してくれる人がいて初めて成り立つ事業が地域の寺子屋です。

保護者やPTA、住民ら数人の実行委員会を運営するケースもあります。中学校区の地域教育会議が運営しているところもあります。

一昨年、東高津小で、昨年坂戸小でも始まりました。この冬、ミンクで「わかあゆ」での広報をさせていただきました。

(企画編集 角田 仁)

話をしていると、今後の公立学校のコミュニティ・スクール化のこと、学校の動き方改革を踏まえた教師の負担軽減を考慮した部活動の適切な指導体制について、休日の部活動を地域人材で担うことなど、寺子屋を超えてあちらこちらに話題が広がりました。

複数校への展開

末長小学校での事業開始は、久本小学校で寺子屋を経験した先生の末長小学校への異動がきっかけだったそうです。生徒数千人を超える末長小学校、しかし

多くの寺子屋の学習支援は、学校から出された宿題や寺子屋で用意したプリントなどを、寺子屋先生が見てあげる形式が多いと思われませんが、SELFの場合は「川崎ブレイブサンダース」や地域の企業女子チーム「富士通レッドウエーブ」によるバスケットボール教室であったり「プロレスラー」が教えるトレーニング術、「カッパよく踊ろうHIPHOPダンス」など、月ごとにテーマを決めてユニークな教室を開講しています。SELFらしいですね。

1日ネットし、地域のボランティアスタッフ(寺子屋先生)15名で運営しているという事です。毎週1回、平日の放課後に行っている学習支援と、月1回、日曜日などに親子や地域の人たちと活動する体験学習がそのメニューです。学習支援は坂戸小が月曜日、久本小と末長小が水曜日ということなので、なかなか忙しそうです。



スナックゴルフ(坂戸小学校)

んで、スポーツだけでなく、地域ならではの文化系の内容も入れているそうです。「写経」は好評で、受講者を抽選にせざるを得なかったとのこと。

東高津中学校区「おやじの会」 中学校中庭で芋畑づくり



集まったおやじの会メンバー(ご婦人方もいらっしゃいますが)

令和3年5月30日、中学校中庭の芋畑を耕し、さつまいもを植えました。
令和2年はコロナで中止。今年もできないと2年連続の中止となり、芋畑が分かる先生方がいなくなってしまうのでは、との危機感から、「今年はやろう!」と、おやじたちが頑張りました。
学校におじやまするのは久しぶり。校長先生・教頭先生も迎えてくれました。
朝、8時集合で、お昼前まで楽しく作業。生徒たちも大活躍です。べにはるかを植えました。



生徒も耕運機を運転してみました。



12月にPTAのOB会の懇親会(マスク会食・ノンアルコール)がありました。無事収穫との報告をいただきました。

地域教育会議がめざすもの

- ・子どもがいきいき育つまち
- ・おとも楽しく学べるまち

「地域教育会議」と聞いても知らない方も多いと思います。名称が堅いこともあり、浸透しているとは言えないかもしれませんね。1980年代、校内暴力で荒れる学校や少年事件が多発。川崎市では地域からの教育改革をめざし「地域教育会議」が提案されました。地域と学校、行政が共に協力し、子どもがいきいき育つまちを作ろうというものです。そして、おとも楽しく学べるまち、ひいてはあらゆる人々が共に生きる地域社会をめざします。

地域教育会議は平成10年には7行政区、51中学校区すべてに設置されました。高津中学校区と東高津中学校区は、川崎市で唯一、2つの中学校区が合同で活動を行っています。今号では、「地域の寺子屋」を運営している総合型スポーツクラブSELFを取材しましたが、SELFもこの中学校区の地域教育会議の活動から生まれました。

〈企画・編集 角田〉

